

# 県内経済動向調査結果(平成21年12月分)

平成22年2月9日

産業経済政策課

## 概 況

県内経済は、製造業で持ち直しの動きが見られるものの、総じて厳しい状況が続いている。

| 主な業種  | 状 況  |
|-------|--|
| 製 造 業 | 持ち直しの動きが続いている<br>生産額、受注額はそれぞれ前年同月比16.4%増、同23.5%増となった。<br>3か月先の業況見通しDIは▲36.1から▲13.3となった。        |
| 建 設 業 | 公共工事の減少などから先行き見通しが悪化<br>受注額、完工高はそれぞれ前年同月比21.5%減、同10.7%増となった。<br>3か月先の業況見通しDIは▲75.0から▲56.3となった。 |
| 小 売 業 | 引き続き弱い動きとなっている<br>売上高は前年同月比2.4%減、3か月先の業況見通しDIは▲50.0から▲58.6となった。                                |
| サービス業 | 弱めの動きとなっている<br>売上高は前年同月比6.6%減、3か月先の業況見通しDIは▲48.1から▲44.4となった。                                   |

# 製造業の動向

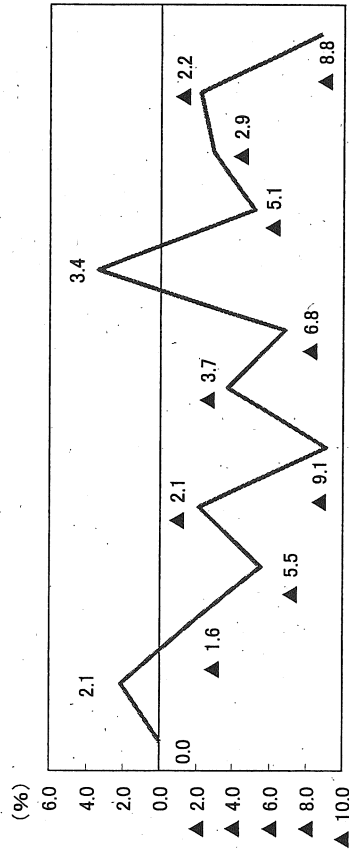
## 1 食料品

### 弱含みとなっている

生産額は前年同月比8.8%減。3か月先の業況見通しDIは▲35.7から▲50.0となった。

酒類では、忘年会の回数の減少や、規模の縮小、お歳暮向けが低調だったことなどにより、売上が伸びず前年同月比マイナスとなった。調味料関連や加工食品などでも売上が減少し、総じて弱含みとなっている。

食料品生産額前年同月比



20年 12月 21年 12月  
1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月

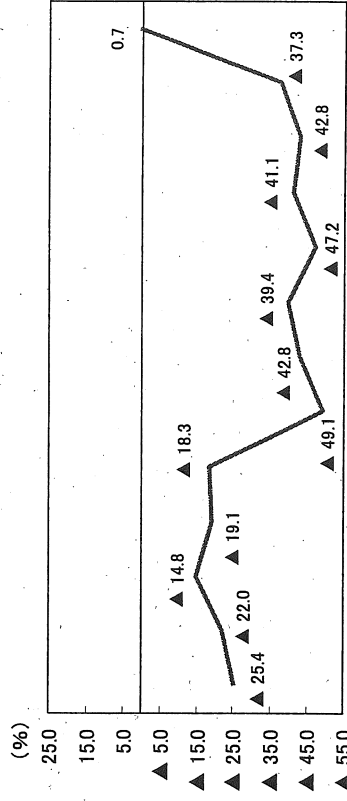
## 2 繊維・衣服

### 13ヶ月ぶりにプラス

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比0.7%増、同11.0%減。3か月先の業況見通しDIは0.0と変わらない。

通信販売用の女性衣料や冬物の追加受注の増加などにより好調だった企業が見受けられた一方、デフレによる小売価格の低下から、受注単価が下がることなどにより、売上や利益の減少している企業も見受けられ、企業により業況が分かれるものとなった。総じて見ると、ほぼ前年並みではあるものの、13ヶ月ぶりにプラスとなった。

繊維・衣服生産額前年同月比



20年 12月 21年 12月  
1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月

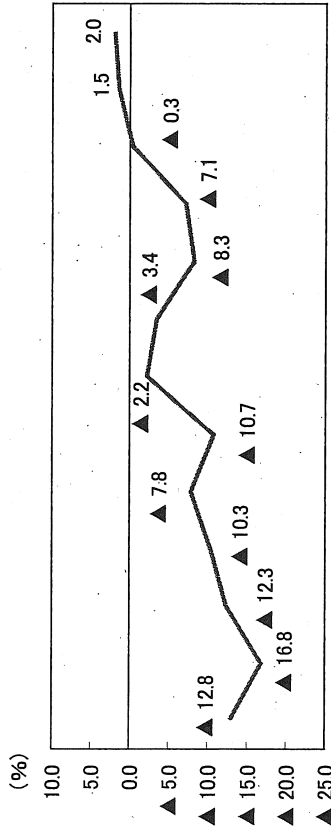
3 木材・木製品

やや弱含みの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比2.0%増、同7.1%増。3か月先の業況見通しDIIは▲50.0から▲25.0となった。

合板、一般製材では、前年同月比プラス、集成材では、前年同月比マイナスとなっている。全体としては2か月連続でプラスを確保し、若干動きが見られるものの、住宅市況が落ち込んだままであることから、今後の動向については、不透明であり、やや弱含みの動きとなっている。

木材・木製品生産額前年同月比



20年 21年  
12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

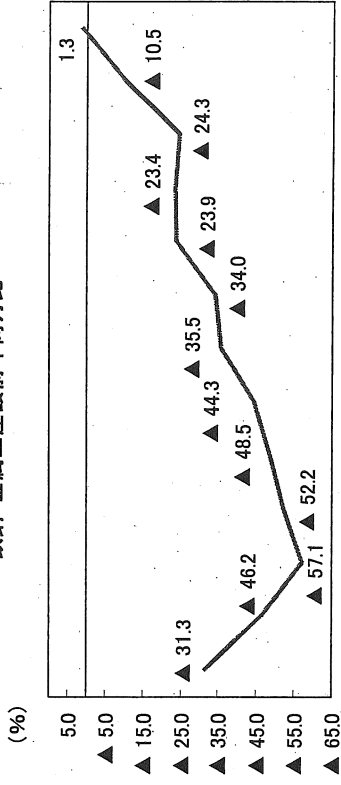
4 鉄鋼・金属製品

弱めの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比1.3%増、同11.0%減。3か月先の業況見通しDIIは▲36.4から0.0となった。

鉄鋼では、輸送機械部品関連で、残業、休日勤務で対応している企業が見受けられ堅調となっている一方で、産業設備関連では受注件数の減少などから、前年同月比でマイナスの状況となっている。

鉄鋼・金属生産額前年同月比



20年 21年  
12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

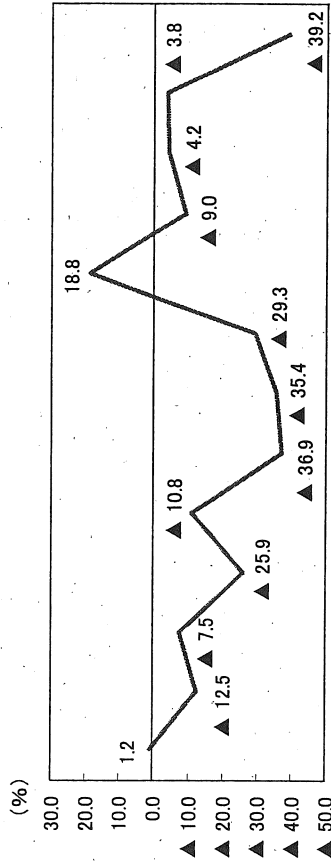
5 一般機械

弱めの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比39.2%減、同3.8%増。3か月先の業況見通しDIは▲42.9から▲14.3となった。

一部の産業機械関連や公共工事関連で堅調な動きが見られるほかは、低調な生産活動となっており、多くの企業で前年同月比がマイナスとなっており、休業日を設ける企業も見受けられるなど、弱めの動きとなっている。

一般機械生産額前年同月比



20年 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

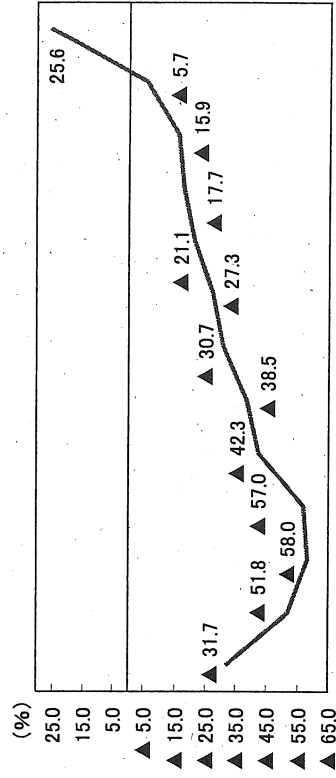
6 電気機械

持ち直しの動きが続く

生産額、受注額は、それぞれ前年同月比25.6%増、同24.6%増。3か月先の業況見通しDIは▲42.1から10.5となった。

前年の生産額の落ち込みが大きかったために、前年同月比では大きくプラスとなっているものの、昨年秋季以降の落ち込み以前の水準までの回復までには至っていない企業が多い。コンデンサーでは、自動車関連での増加が見られるほか、この先数ヶ月の受注確保の見通しがたっている企業も多く、持ち直しの動きが続いている。

電気機械生産額前年同月比



20年 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

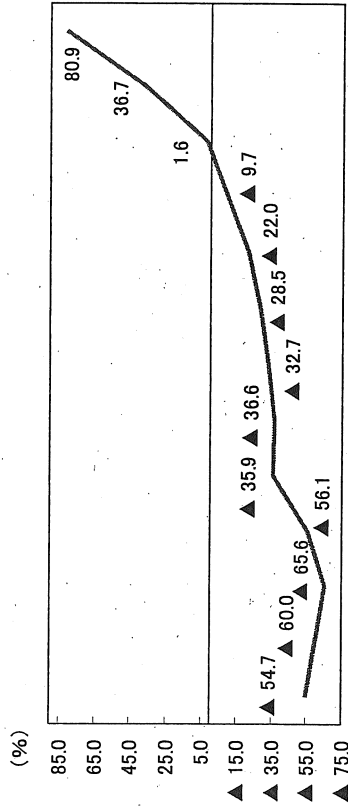
7 輸送機械

回復基調が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比80.9%増、同73.7%増。3か月先の業況見通しDIは▲33.3と変わらない。

全ての調査対象企業が前年同月比でプラスとなり、回復基調が続いている。工場をフル稼働し、残業、土曜日出勤で増産に対応している企業も見受けられ、国・県のエコカ一助成が延長されたことなどにより、今後も堅調に推移していくことが見込まれる。

輸送機械生産額前年同月比



20年 21年  
12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

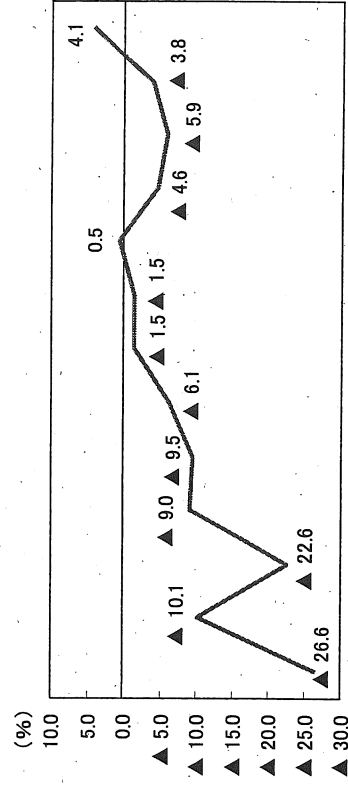
8 精密機械

弱含みとなっている

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比4.1%増、同22.7%増。3か月先の業況見通しDIは▲25.0から0.0となった。

光学部品関連では、増産に対応するため、派遣社員を増員するなどの企業も見受けられ、緩やかに回復してきている。医療機器関連では、一服状態が続いている。光ファイバー関連では、中国及び北米市場の減速から、伸びが鈍化しているほか、円高により収益率が低下している。

精密機械生産額前年同月比



20年 21年  
12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

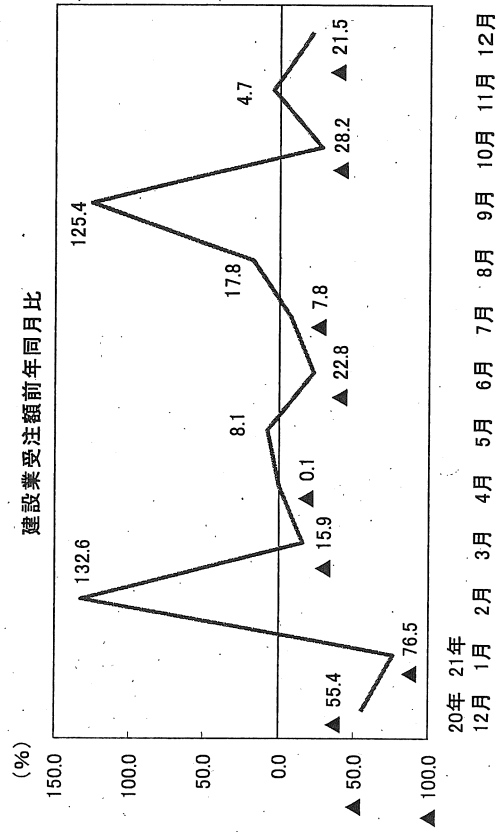
# 建設業の動向

## 建設業

### 公共工事の減少などから先行き見通しが悪化

受注額、完工高はそれぞれ前年同月比21.5%減、同10.7%増。3か月先の業況見通しDIは▲75.0から▲56.3となった。

公共工事が減少しているほか、住宅着工などの民需も低迷しており、厳しい状況となっている。3か月先のDI値も▲56.3と今後の先行き見通しの悪化の懸念が強い状況が続いている。



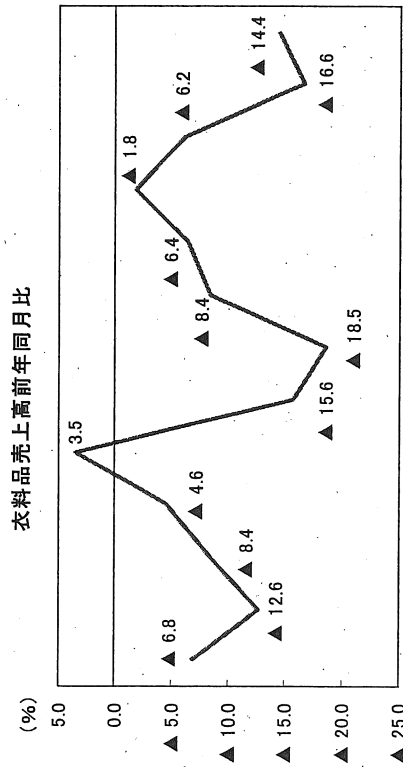
# 小売業の動向

## 1 衣料品

### 低調な売上となっている

売上高は前年同月比14.4%減。3か月先の業況見通しDIは▲40.0から▲66.7となった。

冬物コート動きが若干見られたものの、全ての調査対象企業の前年同月比がマイナスであり、低調な売上となっている。3か月先の見通しのDI値が▲66.7と調査対象業種の中で最も悪化しており、今後の回復の兆しが見えにくい状況となっている。



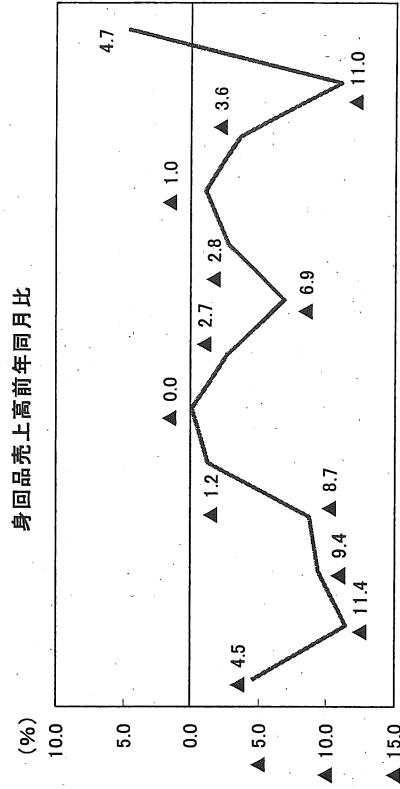
20年 21年  
12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

## 2 身回用品

### 季節用品が好調

売上高は前年同月比4.7%増。3か月先の業況見通しDIは▲83.3から▲50.0となった。

ホームセンターでは、除雪用品や防寒具が好調であり、売上の前年同月比がプラスとなった。化粧品では、地域のポイントカード事業などの影響もあり、売上が増加した。



20年 21年  
12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

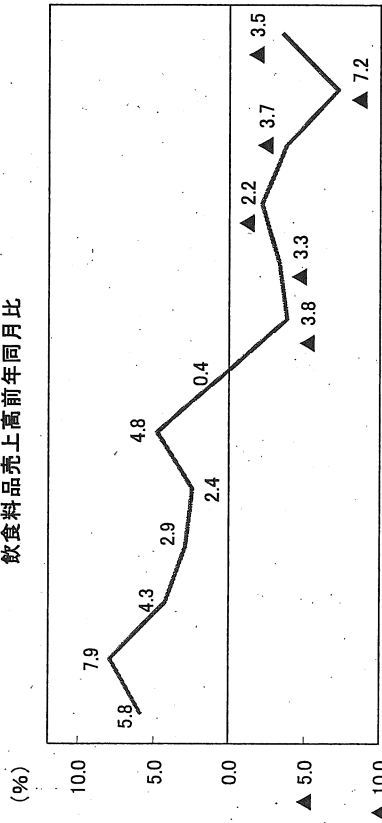
3 飲食料品

弱めの動きとなっている

売上高は前年同月比3.5%減。3か月先の業況見通しDIIは▲50.0から▲66.7となった。

スーパーでは、外食を控え、家庭で食事をする内食傾向の強まりの影響により売上の前年同月比がプラスとなった企業が一部あるものの、消費者の低価格志向は続いており、客単価が下がり、客単価が下がり、売上は伸び悩んでいる。

飲食料品売上高前年同月比



20年 21年  
12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

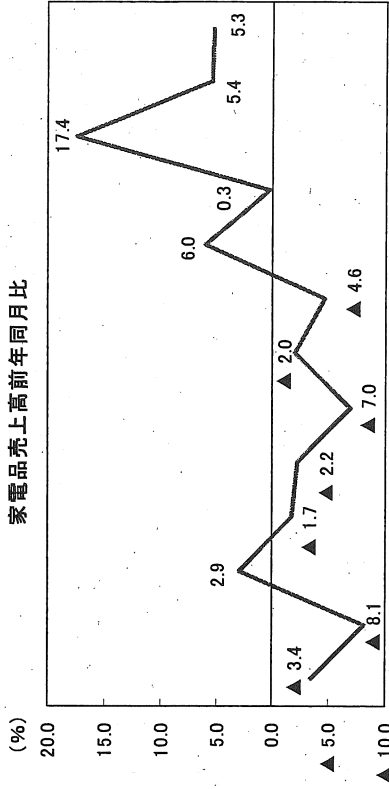
4 家電品

薄型テレビを中心に引き続き堅調

売上高は前年同月比5.3%増。3か月先の業況見通しDIIは▲20.0から▲40.0となった。

エコポイント対象商品の中で、薄型テレビが引き続き堅調であったほか、暖房機が好調であり、全体として5か月連続で売上高の前年同月比がプラスとなっている。エコポイント制度の延長や地上デジタル放送への移行が追い風となり、今後も薄型テレビが中心となり売上を牽引していくことが見込まれる。

家電品売上高前年同月比



20年 21年  
12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月



# サービス業の動向

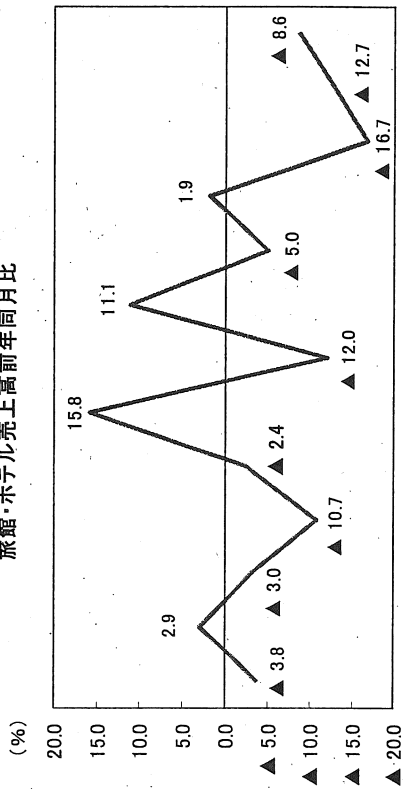
## 1 旅館・ホテル

### 弱めの動きとなっている

売上高は前年同月比8.6%減。3か月先の業況見通しDIは▲60.0から▲46.7となった。

宿泊部門、婚礼部門、宴会部門とも、総じて動きが弱いものとなっている。宿泊部門では、稼働率が50%を割り込んでいる企業もいくつか見受けられるなど、低調となっている。宴会部門では、忘年会の回数の減少などにより、落ち込んだ。

旅館・ホテル売上高前年同月比



20年 21年  
12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

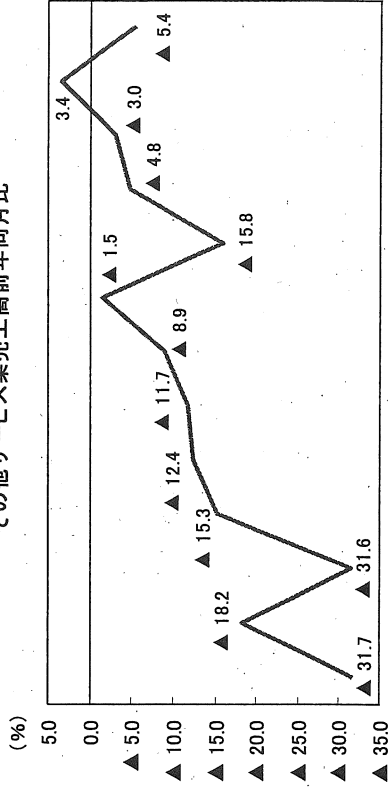
## 2 その他サービス

### 弱含みとなっている

売上高は前年同月比5.4%減。3か月先の業況見通しDIは▲33.3から▲41.7となった。

運輸業では、貨物輸送において、自動車関連部品、特に海外輸向けが好調に推移したものの、他の貨物品の動きは弱い。旅客運輸においては、前年同月比並みとなった。道の駅では、B1グランプリでのゴールドランプリ獲得の影響もあり、横手焼きそばの販売が好調であった。

その他サービス売上高前年同月比



20年 21年  
12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月